

マレーシア編

映画館開設に否定的なクランタン州



映画館はイメージ写真。右は映画館が入る予定だった KB モール。

マレー半島北部にあるクランタン州。マレーシアのなかでも最もイスラム色が強い州で知られています。

州政府は今年3月、州内で映画館を開設することを認めない方針を示しました。州議会の野党が開設の承認を求めた回答でした。

理由は「社会的に有害なため」。政府幹部の一人は、「子どもが夜間に出歩いたりすることはよくない」ことをあげています。また、州首相は「ソーシャルメディア上で映画は十分みられるではないか」とも語り、映画館開設にははとも否定的です。

同州には実は映画館が 1990 年までありました。しかし、全マレーシア・イスラム党(PAS)が州政権を握ると映画館はたちまち廃止に。暗い映画館で男女がいっしょにいることがよしとされなかったため、婚前交渉を助長するデートの場を提供するのはいかながなものかという立場がそうさせたのでしょう。

2016 年ぐらいから新たにオープンさせる動きがありました。しかし、開設条件として館内の席を男女別にすること、上映中も明かりはつけっぱなしにしておくことなどを州政府は突きつけたのです。それでも映画配給会社はこの条件をのんででも開業させたかったようですが、結果は上記の理由でオープンできず。州都コタバル市内にある商業施設 KB モール3階に開設することにもなっていたのですが。

クランタンの映画ファンらは現在、車で片道3時間をかけて隣のトレンガヌ州まで見に行っています。

やはりイスラム色が強いトレンガヌ州も実は 2017 年 3 月まで映画館がありませんでした。しかし、こちらは「ビジネスになる」として方針を転換し、条件付きで開設に至ったのです。男女が並んで座ることも認めましたが、上映中はしっかりと監視カメラも使って「男女のふしだらな行為」がないよう見張っているのです。

クランタンは HIV 感染者数が国内最多になっていたり、タイから密輸される麻薬問題など他州より社会問題は深刻。「映画館開設問題」はこれら問題からみれば、たいした問題ではないのですが、州政府はいたって真剣です。さて、クランタン州に映画館がオープンする日はくるのでしょうか。